

オオソリハシシギ

Limosa lapponica (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

旅鳥として記録されるが、2002年以降の記録が9件しかなく、減少傾向が認められる。

分 布

日本には旅鳥として干潟や砂浜に飛来し、秋の方が多。本県では、4～5月上旬と9月の渡り期に、主に坂井平野と久々子湖周辺の水田でみられる。

種の特徴

全長41cm。長くて上に反った嘴、基部はピンク色、足は長くて黒い。翼帯はなく腰と尾羽が白く、黒褐色の横斑がある。長い足と長い嘴で、甲殻類、昆虫類、ミミズ、ゴカイ、二枚貝等を食べる。

生息を脅かす要因

本県には、本種の採餌に適した干潟や湿地等の環境が少なく、田植え前後の水田や湿田等でみられる。しかし乾田化による湿田の減少や温暖化に伴う5月半ば適期田植えの推奨により、本種の飛来時期に湛水水田が減少し、生息環境は悪化している。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○						

ツルシギ

Tringa erythropus (Pallas)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

シギ・チドリ類の中では記録は多いが、定期的な渡来地である狐川の出現頻度の低下や、数十羽の群れがみられなくなる等、過去数年間の記録は減少傾向にある。

分 布

旅鳥として干潟、水田、蓮田に飛来する。秋より春の方が多。本県では3月中旬～5月中旬、9月上旬～10月上旬に、福井平野や久々子湖周辺の水田や川でみられる。

種の特徴

全長32cm。夏羽では全身黒く背・翼に白斑が多く散在する。嘴は長くて黒く、下嘴の基部が赤い。冬羽では足が赤く、頭～上面が灰褐色で、白い羽縁とその内側に黒褐色斑がある。浅い水の中にいる水生昆虫、甲殻類、軟体動物等を食べる。

生息を脅かす要因

本県には、干潟や湿地等の環境が少なく、田植え前後の水田や湿田、浅い河川等でみられる。しかし、乾田化による湿田の減少、温暖化に伴う5月半ば適期田植えの推奨による飛来期の湛水水田の減少、河川整備等により、生息環境は悪化している。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○	○	○	○			○

コアオアシシギ

Tringa stagnatilis (Bechstein)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

数少ない旅鳥として、九頭竜川下流域や久々子湖周辺の水田等の限られた地域で、断続的に確認されているが、近年、減少傾向にある。

分 布

旅鳥として、全国の水田、湿地、干潟等に飛来するが多くなく越冬する個体もいる。本県では、4～5月と8～9月に、かつては福井新港で、現在は限られた地域の水田に飛来する。

種の特徴

全長24.5cm。嘴は黒くまっすぐで細い。足は黄緑色～オリーブ緑色で長くてスマートなシギ類である。飛翔時に翼帯はなく、下背～尾羽は白い。浅瀬を歩きながら、細長い嘴で水生昆虫、小さい甲殻類、軟体動物等を食べる。

生息を脅かす要因

本県において渡りの時期に利用している水田環境は、乾田化と湛水休耕田の減少によって湿地としての機能が低下し、渡りの中継地として利用できなくなりつつある。飛来記録がある地域の水田では、湛水休耕田や飛来期の水張り水田の配置等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、桐原ら（2000）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大西・真木（2000）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○					○	○	○	○			○